

平成 30 年度

授業改善推進プラン

- ①課題を明らかにするための根拠となるデータ
- ②分析と課題
- ③「思考力・判断力・表現力」を育成するための教科指導の工夫・改善策
- ④学年別の指導の工夫・改善策

文京区立文林中学校

氏名 (田邊 しのぶ・難波江 康正) 担当教科 (国 語)

目指す授業

課題解決学習・意見のシェアを通して、自分の考えを他人の考えを聞くことで深められる授業。



見方や
考え方

(国語) 科で「思考力・判断力・表現力等を育成する」ために
目指す資質・能力

○多様な考え方、様々な角度からの読み取る能力。

課題を明らかにするための根拠となるデータ

29年度 東京都学力調査

教科	A 教科の内容												B 読み解く力に関する内容											
	関心・意欲・態度			思考・判断・表現 (国語：話す・聞く) (英語：外国語表現)			技能 (国語：書く) (英語：外国語理解)			知識・理解 (国語：言語)			読む			取り出す力		読み取る力		解決する力				
	学級	学年	東京都	学級	学年	東京都	学級	学年	東京都	学級	学年	東京都	学級	学年	東京都	学級	学年	東京都	学級	学年	東京都			
国語	100.0%	100.0%	96.9%	79.5%	79.5%	69.9%	82.7%	82.7%	70.2%	80.8%	80.8%	77.0%	76.9%	76.9%	56.9%	76.9%	76.9%	69.7%	84.6%	84.6%	71.8%	100.0%	100.0%	78.4%

各領域とも都の平均を上回っており、特に解決する力において前年度と比較しての伸び率が高かった。

課題解決学習を取り入れた成果が上がっていると考えられる。

分析コメント

書く技能においても数値が上がっているが、読み取る力・書く力を安定させていく必要がある。



<課題>

適切に取り出す力が他の力に比較してのびしろがあるように思われる。文章を要約する力を育成する必要がある。



対話的な学びを構成するための工夫 (単元の工夫、授業展開の工夫、小集団の構成の工夫等)

グループの人数をなるべく少数にし、なるべく一人一人が考えたり、発表したりする機会を増やすようにする。

文章の図式化・要約文の作成なども課題に取り入れ、適切に取り出す力を育成するようにする。発表前に情報を精査させるようにする。

目指す授業

**より良い考えを見だし、数学の
楽しさやよさが実感できる数学的
活動の充実**



見方や
考え方

（数学）科で「思考力・判断力・
表現力等を育成する」ために
目指す資質・能力

○数学を活用して論理的に考察
し、数学的な表現を用いて簡潔・
明瞭・的確に表現する力

課題を明らかにするための根拠となるデータ

・平成 29 年度学習到達度評価の結果(数学的な見方や考え方)

現 3 年(平成 29 年度 2 年)

評価	2 号	3 号
A	11 人	11 人
B	2 人	3 人
C	0 人	0 人

現 2 年(平成 29 年度 1 年)

評価	2 号	3 号
A	12 人	14 人
B	9 人	4 人
C	4 人	7 人

正答率に課題がある問題

学習単元	正解	その他	無答
連立方程式	7 人	1 人	5 人
平面、空間図形	4 人	8 人	2 人
資料の活用	8 人	3 人	3 人

正答率に課題がある問題

学習単元	正解	その他	無答
1 次方程式	14 人	2 人	8 人
平面図形	12 人	7 人	3 人
空間図形	6 人	9 人	9 人

分析コメント

数学的な見方・考え方の正答率に課題がある問題を分析すると、2 つの学年とも方程式の利用や図形分野に課題が残っている。その他の解答及び無答の生徒は、正しく立式できていない場合または、立式すらできない状況であることが推測される。



<課題>

- ・図、表、グラフ、式などを利用して情報を整理し、自分の考えを表現する力。
- ・数学的な見方や考え方を働かせて、問題解決を図る力。



対話的な学びを構成するための工夫（単元の工夫、授業展開の工夫、小集団の構成の工夫等）

- ・多様な考えが出るような身近な数学的事象の課題設定
- ・自力解決時間の確保
- ・数学的な表現を用いた説明（言葉、数、式、図、表、グラフなどの数学的な表現を意識させる。生徒に数学的な表現の利便性を感じさせる。グループ活動を行う際には、自力解決前にグループ活動の目的を説明する）
- ・他者との関わり（他者の発言に対する数学的な事柄について質問や比較をさせることで、生徒自らの考えを再構築させたり、生徒相互の対話的な学びに対する意欲を向上させたりする）

氏名（ 高草木直子・鶴山裕有未 ） 担当教科（ 英 語 ）

目指す授業

- ・表現する楽しさを実感できる授業。
- ・対話の中で気づきを共有し、互いに高め合う授業。

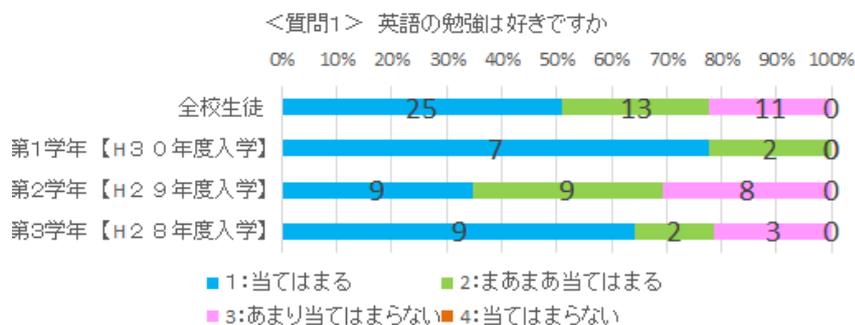


見方や
考え方

（英語）科で「思考力・判断力・表現力等を育成する」ために
目指す資質・能力

- ・語彙・文法を身に付ける力
- ・学んだことを活用し、積極的にコミュニケーションを図る力

課題を明らかにするための根拠となるデータ



分析コメント

英語の勉強があまり好きではない生徒が2, 3年生で一定数見受けられる。1年生は0ポイントである。また、3年間で比較すると英語が好きではないと答える生徒は徐々に減ってきている。習熟度の違いはあっても分かる楽しさや自己の成長は、全ての生徒がそれぞれの段階で感じられるものと考えられる。



<課題>

- ・基礎基本を定着させるための手立ての確立
- ・興味と意欲を引き出す導入、コミュニケーション場面の創出



対話的な学びを構成するための工夫（単元の工夫、授業展開の工夫、小集団の構成の工夫等）

- ・語彙や文法の定着を図るために、単元ごとの単語テストやスペリングコンテストを実施する。また副教材やプリントを使い「繰り返し学習」を徹底する。
- ・振り返りの時間を設定し、個人で考えたり、互いに気づいたことや学んだことを自分の言葉で説明したりさせることで学習内容の定着を図る。
- ・ペア・グループでの協同的な学び、また個々に学びを振りかえる場面を設定する。

目指す授業

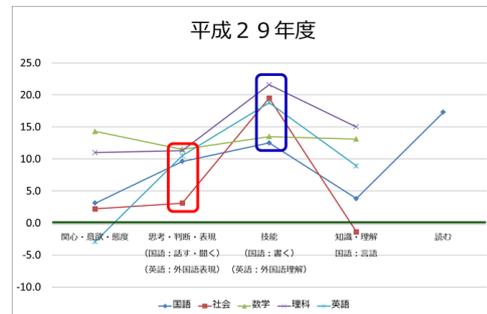
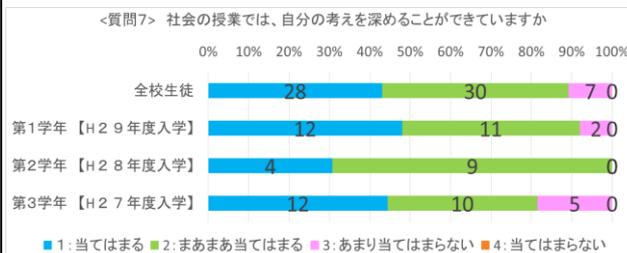
対話的な学びを通して思考を深め、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。



(社会) 科で「思考力・判断力・表現力等を育成する」ために目指す資質・能力

○社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力

課題を明らかにするための根拠となるデータ



1 平成29年度生徒質問紙調査 (平成30年1月実施)

2 平成29年度 児童生徒の学力向上を図るための調査 (東京都教育委員会 現3年 平成29年6月実施)

分析コメント

データ1より、全校の約9割の生徒は考えを深めることができていると感じている。特に、2学年の10割が肯定的な回答をしていることは注目すべき値である。しかしデータ2より、同生徒の「思考・判断・表現力」は他教科と比較した時には高くはない。(5教科中最下位である。)
「知識・理解」の観点で表される学力に課題があることもデータ2から明らかになっている。

<課題>

「知識・理解」の観点で表される学力は「思考力・判断力・表現力」の土台となる要素であり、多面的・多角的な考察や課題解決に向けた対話を行う際に不可欠である。「知識・理解」の定着をはかるとともに、生徒の質問紙調査結果に満足することなく、さらに対話を通じた思考を深める

*対話的な学びを構成するための工夫 (単元の工夫、授業展開の工夫、小集団の構成の工夫等)

○対話を実現する上で必要となる「知識・理解」の定着のために、授業内の振り返りを充実させる。単元毎に小テストを実施し学習内容を振り返る。

○課題に対して、初めに個人で考えをまとめる時間を確保し、次に小集団で自分の考えを説明しあう。自分の言葉で説明することで、思考を確かなものとすることができ、他者の考えを知ることによって考えを深めたり広げたりすることができる。さらに学級全体で発表し合う機会を通して多様な意見やまとめ方を学ぶ。

目指す授業

対話的な学びを通じて、自ら思考したことをじっくりと吟味して再構成し、思考した内容を科学的に表現できる授業



(理) 科で「思考力・判断力・表現力等を育成する」ために目指す資質・能力

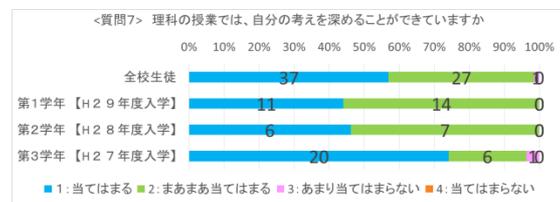
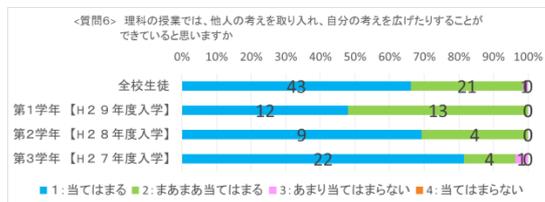
○観察、実験などを行い、科学的に探究する力

※科学的な探究・・・自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどする探究方法

課題を明らかにするための根拠となるデータ

○H29年度1月教科別質問紙調査

「理科の授業では、他人の考えを取り入れ、自分の考えを広げたりすることができますか」(下図 左)
 「理科の授業では自分の考えを深めることができますか」(下図 右)



○学力調査等から見た生徒の学習状況の課題 (区・都・全国平均との差)

観点	2年生【H29年度入学】		3年生【H28年度入学】	
	科学的思考・表現	総合	科学的思考・表現	総合
1年次 区学力調査(4月)	▲1.1	▲2.4	2.9	4.2
1年次 学習到達度調査(9月)	▲1.2	▲0.6	5.4	11.9
2年次 都学力調査(7月)			11.3	13.9
2年次 学習到達度調査(10月)			5.3	15.5
2年次 学習到達度調査(3月)			6.4	14.5

分析コメント

理科の授業では自分の考えを広げたり深めたりすることができるという回答している生徒の割合は多いが、卒業生【H27年度入学】の実感ほどは強くなく、学年が下がるほど「あてはまる」より「まあまああてはまる」の割合が増えている。学力調査では2年生の基礎学力(総合)及び科学的思考・表現の観点は平均を下回っている。3年生は基礎学力(総合)が平均で+12ポイント上回っているが、科学的思考・表現の観点は平均で+6ポイントである。

<課題>

- 基礎学力の向上を基盤にして、科学的思考力を伸ばさせていくこと。
- 思考したことを更に深め「自分の考えを深められた」と全ての生徒が実感できる学習場面の設定。
- 「思考力・表現力」の多面的な評価と適切なタイミングでのフィードバックの実施。

対話的な学びを構成するための工夫 (単元の工夫、授業展開の工夫、小集団の構成の工夫等)

- 科学的思考力を高めるための実験・観察レポート指導の充実。
 具体的にはガイダンス資料の作成とルーブリックによる相互評価の実施。
- 単元の導入・終末時に集中的に対話的な学びを入れた単元計画の設定とその実施。
- 他人の意見を聞いた後に自分の考えをもう一度練り直す時間の設定。
- 自分の言葉で説明した後に、文章で的確に表現する学習場面の設定。
- 対話する人数を2～3名にし、毎回対話するメンバーが変わるような工夫。
- 対話する必然性を感じさせる課題の設定。

目指す授業

- 多種多様な音楽に触れさせ、音楽体験を通して生徒の音楽の世界を豊かにする授業。
- 音楽的な表現技術を習得・向上させ、生徒同士が高め合う授業。



見方や考え方

音楽科で「思考力・判断力・表現力等を育成する」ために目指す資質・能力

- 楽曲の特徴を捉え、思いや意図をもって音楽的に表現すること。
- 楽曲を聴き、音楽的に分析し、特徴やよさを言葉で表現すること。

課題を明らかにするための根拠となるデータ

	平成29年度 3学期 回答数					平成29年度 3学期 回答率				
	1: 当てはまる	2: まあまあ当てはまる	3: あまり当てはまらない	4: 当てはまらない	回答者数	1: 当てはまる	2: まあまあ当てはまる	3: あまり当てはまらない	4: 当てはまらない	回答率
<質問6> 音楽の授業では、他人の考えを取り入れ、自分の考えを広げたりすることができていると思いますか。										
全校生徒	21	35	8	1	65	32%	54%	12%	2%	100%
第1学年【H29年度入学】	9	13	3	0	25	36%	52%	12%	0%	100%
第2学年【H28年度入学】	4	8	1	0	13	31%	62%	8%	0%	100%
第3学年【H27年度入学】	8	14	4	1	27	30%	52%	15%	4%	100%

	平成29年度 3学期 回答数					平成29年度 3学期 回答率				
	1: 当てはまる	2: まあまあ当てはまる	3: あまり当てはまらない	4: 当てはまらない	回答者数	1: 当てはまる	2: まあまあ当てはまる	3: あまり当てはまらない	4: 当てはまらない	回答率
<質問13> 音楽の授業で「より深く学べた」と感じる機会がありましたか。										
全校生徒	25	31	9	0	65	38%	48%	14%	0%	100%
第1学年【H29年度入学】	13	10	2	0	25	52%	40%	8%	0%	100%
第2学年【H28年度入学】	4	9	0	0	13	31%	69%	0%	0%	100%
第3学年【H27年度入学】	8	12	7	0	27	30%	44%	26%	0%	100%

分析コメント

他の質問項目に比べ、質問6、質問13で「当てはまる」と回答した割合が10%程度低く、質問6に関しては「あまり当てはまらない」の各学年見られる。また、学年によって割合も大きく変化している。



<課題>

生徒が自分の考えを広げたりすることができたと実感できるような効果的な対話やグループ活動を取り入れると共に音楽的な知識や技能を身につける必要がある。各学年ごとの特性を考慮した授業の構成をする必要がある。



対話的な学びを構成するための工夫 (単元の工夫、授業展開の工夫、小集団の構成の工夫等)

自分で考える時間と他の意見を聞く時間、それを取り入れて考えを広げる時間の明確化とワークシートの工夫をする。また、小集団でのグループ活動や個別での意見交換の場面を設定することで生徒一人一人の考えを引き出せるようにする。

目指す授業

○体験と対話による学び合いを重視し、学んだ技術を評価し活用する授業。



見方や考え方

(技術)科で「思考力・判断力・表現力等を育成する」ために目指す資質・能力

○解決すべき課題を設定する力、条件を踏まえて構想し具体化する力、改善・修正する力

課題を明らかにするための根拠となるデータ (H29年度生徒質問紙調査)

	平成29年度 2学期 回答数					平成29年度 2学期 回答率				
	1:当てはまる	2:まあまあ当てはまる	3:あまり当てはまらない	4:当てはまらない	回答者数	1:当てはまる	2:まあまあ当てはまる	3:あまり当てはまらない	4:当てはまらない	回答率
<質問13> 技術の授業で「より深く学べた」と感じる機会がありましたか。										
全校生徒	19	37	9	0	65	29%	57%	14%	0%	100%
	平成29年度 2学期 回答数					平成29年度 2学期 回答率				
	1:当てはまる	2:まあまあ当てはまる	3:あまり当てはまらない	4:当てはまらない	回答者数	1:当てはまる	2:まあまあ当てはまる	3:あまり当てはまらない	4:当てはまらない	回答率
<質問14> 技術の授業では、生徒の間で学び合う活動をよく行っていたと思いますか。										
全校生徒	27	27	9	2	65	42%	42%	14%	3%	100%
第1学年 [H28年度入学]	12	9	2	2	25	48%	36%	8%	8%	100%
第2学年 [H28年度入学]	5	6	2	0	13	38%	46%	15%	0%	100%
第3学年 [H27年度入学]	10	12	5	0	27	37%	44%	19%	0%	100%

分析コメント

「より深く学べた」と感じている生徒が86%、学び合う活動については84%の生徒が当てはまる、まあ当てはまると感じている。なお、「より深く学べた」に関しては学年があがるにつれて、まあ当てはまらないが微増している。



<課題>

質問13、14の項目において、当てはまる、まあ当てはまると感じている生徒を90%以上にするをを目指す。学年があがるにつれて具象的から抽象的な内容になっていくので、エネルギー変換や計測と制御・プログラミングについて、知識の深い理解と技能の向上を図ることが課題である。



対話的な学びを構成するための工夫 (単元の工夫、授業展開の工夫、小集団の構成の工夫等)

学年進行に応じて段階的に指導していく。1年生ではペア学習、2年生では3人組、3年生では4人組を中心に作業・実習を進めていく。小集団の構成は同じ作業内容で構成する。また、各単元のまとめとして技術の評価と活用を行い、生徒同士による対話的な学び合い活動を行う。

氏名 (本橋 睦生) 担当教科 (保健体育)

目指す授業

**課題解決のため、仲間と協力し、
お互いの考えを参考にしながら主
体的に改善に取り組む授業。**



見方や
考え方

(保健体育)科で「思考力・判断力・表現力等を育成する」ために
目指す資質・能力

○運動や健康について自他の課題
を発見し、合理的な解決に向けて
思考し判断するとともに、他者に
伝える力を養う。

課題を明らかにするための根拠となるデータ

- ・保健体育の授業では、他人の考えを取り入れ、自分の考えを広げたりすることができていると思いますか。(あまり当てはまらない、当てはまらないが10%)
- ・保健体育の授業では、授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか(あまり当てはまらない、当てはまらないが8%)
- ・保健体育の授業では、自分の考えを表現する機会が与えられていたと思いますか。(あまり当てはまらない、当てはまらないが8%)
- ・保健体育の授業では、生徒の間で学びあう活動をよく行っていたと思いますか(あまり当てはまらない、当てはまらないが7%)

分析コメント

他人の意見を取り入れ、自分の考えを伝え表現することに対して積極的、意欲的に活動できない生徒が見られる。授業の楽しさを感じる事が難しくなり、学ぶ意欲の減少に繋がっている。



<課題>

- ・自分の考えを表現したり、伝える力。
- ・運動の特性の理解と積極的な活動を協力して行うためのコミュニケーション能力
- ・お互いの考えを伝え合ったり、主体的に改善するための知識、理解の向上



対話的な学びを構成するための工夫(単元の工夫、授業展開の工夫、小集団の構成の工夫等)

- ・2人～4, 5人グループの編成を組み合わせながら自分の役割を理解した上での視聴覚機器を活用して(見て、確認し、学び合う)の授業
- ・学習カードの継続により振り返りの力を向上させ、課題解決の計画を個人、グループで確認していく。
- ・考えを表現する時間の設定

平成30年度 授業改善推進プラン 学年別の指導の工夫・改善策

	1年	2年	3年
国語	<p>授業に対して真面目に取り組む意欲をもっている。じっくり考えて答えを出す課題に取り組み、論理的思考力、表現力を向上させていくように努める。</p> <p>文章を書くことに苦手意識をもっている生徒もいるので、取り組みやすい課題を設定し、段階的に文章力が向上するように取り組みを行う。</p> <p>なるべく多くの文章に触れ、文章を読み慣れ、読み解く力が向上するように、教科書外の教材も扱う。</p>	<p>課題を考えようする意識や授業に対する意識が高いので、考えを深める課題を多く取り入れていく。都学力調査においても関心意欲態度の項目は90%を超えている。また、思考・判断・表現、技能、知識・理解、読むとどの項目においても65～70%とバランスの取れた正答率となっている。</p> <p>一方で、読み取りに関して取り出す力と比較して、読み取る力がやや低いので、読み取る力を強化し、より安定した読解力をつけられるように取り組みを行う。</p>	<p>積極的に授業に取り組む姿勢も2年次より高くなり、課題学習の内容も充実してきている。今後は表現力が伸びるように個人で考えたり発表したりする機会を増やしていく。領域別学力調査においても全項目において全国平均の達成率を超えている。漢字の読み書きや語句・文法の項目を充実させていく。また、高等学校の学習に向け、古文の読み取り、文法についてもなるべく多く取り入れられるように学習内容の精選を図っていく。</p>
社会	<p>生徒がもつ社会科に対する負の印象（苦手意識・役に立たないという意識）を改め積極的に授業に取り組みさせる。そのために、地理・歴史の各分野において自分の生活との関連がわかるような内容を多くあつかう。生徒の興味関心を広げるため、映像や写真資料などを多用し、生徒が関心意欲をもちやすい授業展開を行う。話し合い活動では、テーマを明確にし、題材を限定することで発言しやすい環境を整備する。</p>	<p>授業に取り組む姿勢はおおむね意欲的で活気があり、都の学力調査結果においても関心意欲態度は92.3%と高い。社会科の学習に対して積極的であるが、同調査における「読み解く力」に関する内容の読み取る力（38.5%）、解決する力（42.3%）をさらに向上させたい。授業では学習内容の理解を深めるとともに、各学習内容に関連する資料を活用し、個人解決、集団解決、振り返りの授業の流れを定着させることによって、読み解く力を強化する。</p>	<p>課題に対してまじめに取り組む生徒が多く、グループでの話し合い活動も意欲的に参加し思考を深めている。思考・判断・表現力は身につけてきているが、WATや定期考査等から、知識・理解に改善の余地があることがわかる。授業中、ペアになった相手に問いの答えを説明しあったり、小テストを実施したりするなどの活動で理解を深め、学習内容の定着を図る。また、既存の学習内容の復習になるような問いかけを授業中に多く行う。</p>

<p>数学</p>	<p>学習内容を充実させるだけでなく、授業の最後に自己評価できるような振り返る活動を取り入れる。身近な数学的事象を課題設定し、学ぶ楽しさや数学のよさを感じさせるような授業を展開する。全体考察時には、数学的表現を用いて発表できるように伝える。</p>	<p>学習内容を充実させるだけでなく、授業の最後に自己評価できるような振り返る活動を取り入れる。個々の学習活動を通して、自分の考えを表現する機会を多く設定する。課題解決学習時には、生徒間での教え合う活動ができるような発問の工夫をする。</p>	<p>数学に興味・関心をもたせるために、学習意義や有用性を理解できるような身近な数学の課題設定をした授業展開を行う。学習内容を充実させるだけでなく、授業の最後に自己評価できるような振り返る活動を取り入れる。自分の考えを表現する機会や生徒間で学び合う活動を多く設定する。</p>
<p>理科</p>	<p>教科担当者が作成した「レポートを書くための科学的な表現のしかた【基礎編】」のリーフレットを活用して、科学的な論述をするための基礎的な力を培わせる。教科の質問紙調査により、「授業中によく考えよう」とする生徒が割合的に少ないという結果を得ている。実験観察等の学習前に予想や実験計画等を思考させ、学習後に結果と考察を自らの力で表現する場面を意図的に設定し、思考する面白さを体感させたい。</p>	<p>教科担当者が作成した「科学的に考えるためのツール Thinking Tool【活用編】」のリーフレットを用いて、多角的・多面的な見方・考え方ができるよう、活用力の素地を培わせる。授業で学び合う活動を行うと、論点が逸れてしまい理科的な思考に及ばないことが課題である。実験観察等の学習時にルーブリックによる相互評価を通して、自らの考えを伝えて学級内で共有させ、決められた観点に基づいてよりの確な表現を意識して行う学習場面を設定する。</p>	<p>教科担当者が作成した「科学的に考えるためのツール Thinking Tool【活用編】」のリーフレットを用いて、多角的・多面的に事物・現象を捉えて思考し表現する活用力を培わせる。3学年の学習内容がより高次の科学的思考を要するため、持っている基礎力を土台にして、充実した分析・解釈を行わせたい。その為、実験観察等の学習後に、実験前の自らの考えを振り返り、結果と合わせて自らの考えを再構成して妥当性のある考察をする学習場面を設定する。</p>

英語	<p>授業のねらいを明確にし、理解した上で活動に取り組みせ、学習に対する意欲の向上を図る。定期的に単語テストを行ったり、文法について自分の言葉で説明させたりすることで基礎・基本の定着を図る。音と音のつながりや強弱を意識した発音練習を行い、英文を読むことに慣れさせる。</p>	<p>語彙や文法における基礎基本の定着を図るため繰り返し学習を徹底し、また自分の言葉で説明する学習場面を意図的に設定する。スピーチやスキットの発表を行い、自分の考えや気持ちを英語で表現する力を養う。音と音のつながりや強弱を意識した発音練習を行い、英語らしく発音できるようにする。</p>	<p>コミュニケーション場面の設定や反復・ライティング活動の充実により、文法と語彙の定着を図る。また、グループ・ペア学習などの学び合い活動を取り入れ、理解と思考力を深めていくとともに英語による自己表現を通して、表現すること・学ぶことの楽しさを感じられるようにする。</p>
音楽	<p>自分で考える時間と他の意見を聞く時間、それを取り入れて自分の考えを広げる時間の明確化し、生徒が意識して活動することで、課題について考えを深め、意欲的に活動できるようにする。また、ワークシートの工夫をすることで、知識を身につけることと考えを深めることをバランスよく学習できるようにする。</p>	<p>音楽的な知識をもとに自分の考えを深められるように、基礎的な知識・技能を身につける場面と自分の考えを深める場面を明確に分けて授業を構成する。また、自分の考えを他の生徒にわかりやすく伝える力を伸長するために考えるポイントを絞って思考するようワークシートの工夫をする。</p>	<p>他の意見を聞き、それに対しての意見やアドバイス等発言し、積極的に学習が進められるように、個人での取組からのペア学習の流れを設定する。失敗や他の意見と違うことを恐れる傾向があるため、自由に考え、安心して試行錯誤できるような時間の設定を行うとともに、それを共有することで楽しさを実感し、より活発に学習を進められるようにする。</p>

<p>保健体育</p>	<p>授業のねらいを明確にし、学習カードを活用しグループ学習の中で意欲向上を図る。自分の考えを発言したり、相手の意見を聞くことにより、知識・理解を深めていく。お互いの技術を見せ合う活動を通して運動技術への興味を深めていく。</p>	<p>振り返りの時間の活動を通して、自分の考えを相手に伝え、他人の意見を聞くことで知識・理解を深める。 グループ学習の教えあう活動を通して、技術向上を図る。 学習カード（振り返り、技術ポイント）を活用し、運動全般の知識を深めていく。</p>	<p>授業のねらい、目標を明確にし、それに向け計画的に取り組めるようグループ学習を通して、意欲を高め技術向上を図る。学習カードを活用しグループによる振り返り活動を行い、積極的に意見を出しあい考える力を向上させ、運動への興味・関心を高める。</p>
<p>技術</p>	<p>のこぎりの実習では、ペア学習を中心に学び合い活動を進めていく。課題解決のための設計や、作業のふりかえりと次への修正を行うことにより、解決をすべき課題を設定する力を身につけさせる。</p>	<p>モーターカーの製作では、3人グループで話し合い活動をしながら、作業を進めていく。さらに、他のグループとの比較によって試行錯誤を繰り返していく。そのことにより、課題の解決策を条件を踏まえて構想（設計・計画）する力を身につけさせる。</p>	<p>アルゴリズムを学んだ後に、プログラムによる計測・制御を、各自工夫しながら作業をすすめる。作業の早い生徒に発表させて、自分のプログラムと比較することで改善・修正していく。課題の解決結果及び解決過程を評価し、改善・修正する力を身につけさせる。</p>